



マイクロバスで行く、恒例の
春の戦跡めぐり 2025



関ヶ原の東洋一の火薬庫跡と古戦場巡り

3月30日(日) 9時00分発

雨天決行です

出発 **9:00**
愛知環状鉄道
瀬戸市駅
西口前

当日の駐車場は確保
できかねますので、
公共交通機関をご利用
願います。



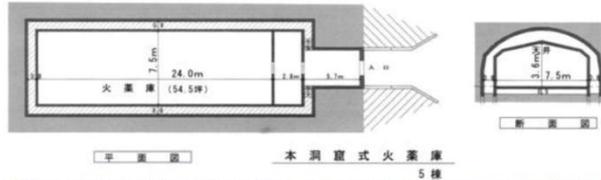
今年も「保存する会」恒例の春の見学会を計画しました。
参加を希望される方またはご質問は、下記の連絡先まで
定員25名になり次第締め切ります。 3月20日締切



鍾乳洞に近い一カ所に説明板が
設置されている。



火薬庫内部のようす
(左図の奥)



半洞窟式火薬庫



5 棟
本洞窟式火薬庫



関ヶ原分廠 営門と立哨台

- 日程
道路・経過時間の状況により変わります。
道路・経過時間の状況により変わります、
全員集合しだいで発車します。
- ①9時00分発 瀬戸市駅西口前
 - ②10:30~12:30
関ヶ原玉の火薬庫と周辺の戦争遺跡
 - ③12:30~13:30
昼食
 - ④13:30~14:00
関ヶ原古戦場記念館シアター鑑賞
 - ⑤古戦場跡見学
 - ⑥瀬戸市駅西口着 17時30分着予定
※当日の交通状況によりコース順、到着時刻は変わります。
昼食はコース途中のコンビニで購入していただきます。弁当持参も可。

参加費 **3000円**

交通費、保険代込み 昼食代別
当日はマイクロバスで有料道路等も利用します。定員25名になり次第締め切ります。

申込み 寺脇

TEL **0572-23-5899**
または **090-6575-4370**
Eメール **tera-m@ob.aitai.ne.jp**



瀬戸地下
軍需工場
跡を保存
する会

会報

NO.185
2025年
3月1日

瀬戸市分町64-1
瀬戸市職労組 事務所
0561-84-4760
fax 84-4767
郵便振替口座番号
00820-9-105120

連絡先

事務局
梅野
090-3837-7050
寺脇
0572-23-5899
fax 同上
携帯
090-6575-4370

Eメール
tera-m@ob.aitai.ne.jp



ありがとう

ございました!

2025年度
会費およびカンパを頂いた方

瀬戸市 佐々木良雄さん 1000円

名古屋市 鵜飼幹雄さん 2000円

知立市 堀崎嘉明さん 1000円

早川博康さん 2000円

美浜町 永田 匠さん 1000円

沖縄県八重瀬町 沖本裕司・富貴子さん 3000円

2025年2月28日現在 +2-1
会員 158名

有意義だった現地見学会 1月25日(土)



1月25日(土) 恒例の地下工場跡現地見学会を行いました。参加者は25名で、そのうち瀬戸市の方が13名、市外の方が12名、遠く奈良県からお越しいただいた方もみえ、そちらの遺構との違いを熱心に観察されていきました。また市内の方からは水野小学校5年生の時に終戦を迎えられ、戦後、担任の指示でトンネル工場の片付けを行ったと証言された方も見え大変、有意義な会になりました。(寺脇)

第1区第5坑のコンクリートの厚さは他のものより厚く主要な入口であると考えられる。



当時の幅と高さを知りうる第10坑



コンクリートの部分がはつきりわかる第7坑。平らな天井が特徴(左)。



トイレ跡と思われるコンクリートの遺構。



寒風の中、ごくろうさまでした!

愛知時計大空襲余話

堀秀夫



2021年ピースフェスティバル in せと「戦争体験を語り継ぐ会」で空襲体験を語られる堀秀夫さん。今回、メールにてご投稿いただきましたので掲載させていただきます。ありがとうございました。(寺脇)

猛烈な空腹との苦闘を終えて、学童集団疎開からわたしが親元へ帰ってきたのは、敗戦の年の11月末でした。当時わたしは9歳、13歳の兄と4人の弟妹と父母との8人家族でした。

36歳だった母は、私の帰宅後10日ほどで亡くなりました。空襲で2度焼け出され、各地を転々としながら衣食住の困窮にさらされた末の病死でした。当時住んでいた家は名古屋市瑞穂区、瑞陵高校の南数百メートルの地にありました。家の前の5mほどの道の両側は、すべて畑になっていて中央の約2メートルが通れる部分でした。

戦災により我が家は衣食とも極度に困窮し、芋粉に糠を混ぜた団子を食べたり日曜日は朝食抜き生活でしたが、煮炊きを使う薪も不足していました。このため月に1、2回、父に連れられ大八車を曳いて愛知時計の焼け跡へ薪拾いに行きました。我が家から愛知時計までは約3キロの距離で、往きは車に乗せてもらい、父と話をしながらの楽しい1日でした。

近くにも焼け跡はいっぱいあったのですが、焼夷弾で焼かれた木造家屋は完全燃焼していたし、焼け残りがあつたとしても直近の人に拾われていました。しかし愛知時計の付近は人家がほとんどなく、また我が家のように運搬具のある

人もまれだったので、愛知時計の焼け跡には、まだ焼けぼっくりが残っていました。愛知時計は焼夷弾ではなく、主に爆弾で破壊されたので、焼け残った木材が転がっていたのです。

しかし、この薪拾いも春には終わりました。玄関先に置いてあった大八車が盗まれてしまったからです。その5年後、父は肺結核で亡くなりました。

時は移りその11年後、名古屋市に事務職員として就職したわたしは、路面電車の沢上車庫へ配属されました。そこで電車の運転手たちが、愛知時計の前を通る路線の、終電車を担当するのを嫌がっているのを知りました。

雨の夜、終電車で愛知機械の前にさしかかると、数十メートルほどの前方を、よろよろと歩いている人の群れが見えるというのです。電車が近づいて前照灯に照らされると、人影は消えてしまうけれども気味が悪いといっていました。

その頃はまだ、みんな愛知時計大空襲の惨劇を記憶していたので、そんな幻影を見たような気がしたのでしょう。

以上

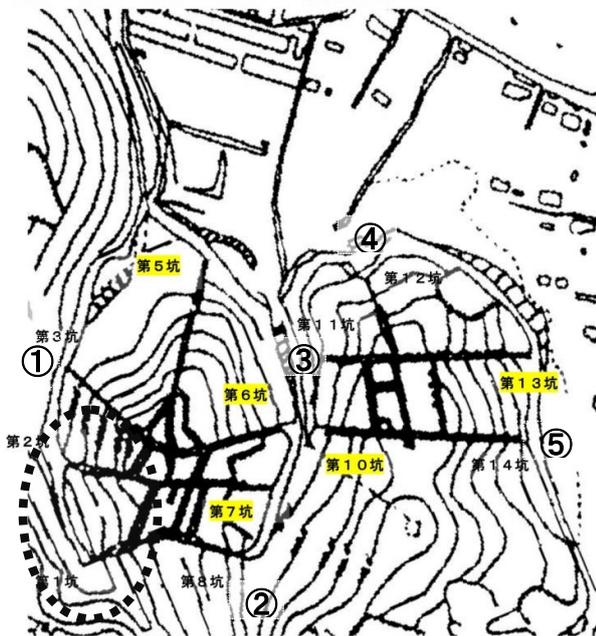
戦跡考古学への挑戦③

地下工場跡地についての疑問は、数限りなくあるのですが、今回は、「工場の入口跡は5か所以外存在しないか？」について考察していきたいと思います。現在、跡地でトンネルの入り口が確認できるのは、右図の①（第1区、第5坑）、②（同、第6坑）、③（第2区、第10坑）、④（第1区、第7坑）、⑦（同、第13坑）の5ヶ所である。

左右の地図はほぼ同じ位置を表していることを考えれば、第1区の西側にあった第1坑、第2坑は現在、ある陸上競技場の北東部の造設（点線部分）のためにほぼ、埋没していると思われる。存在の可能性があるのは、左図 ①第1区第3坑、②第1区第8坑、③第2区第11坑、④第2区第12坑、⑤第2区第14坑の5ヶ所である。

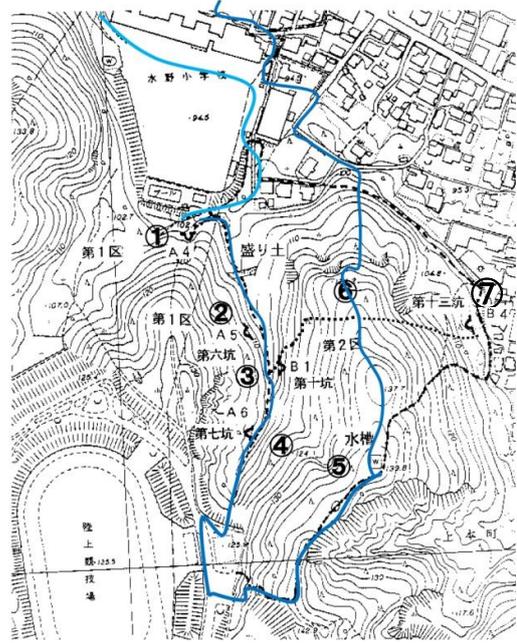
陸上競技場造設にかかっておらずに現在、見ることはできないのは、仮説として以下の3点が考えられる。

第1区・第2区の構造



米国戦略爆撃調査団報告の平面図（1947）

見学コース「平和への散歩道」



現在の地図 1 : 2 5 0 0 100m

- ①土砂によって埋没。
 - ②大雨等によって、コンクリートの入口が破壊され流失。
 - ③もともと入口には現在みられるようなコンクリートの補強はなく、入口付近から素掘りのままで、戦後、内部の木柱が撤去されると同時に陥没し消失した。
- の3つが考えられる。

しかし、

現場の砂礫層の分布を考えれば、入口付近はコンクリートで固めなければ、通常時でも天井を支えられずに崩落してしまうと思われる。飯場を経営していた、鄭さんの証言にも「入口付近は、穴が完成したらコンクリートで固めた」という証言もある。

②のコンクリート流失説をとるとしたら、入口付近と思われるところの堆積土砂を調べれば、厚さ30cm程度のコンクリート片が多量に見つかるであろうが、今までそのような報告はない。

そのように考えれば、①の埋没説が一番可能性が高いと思われる。

現に、第1区の第5坑、第6坑は上部からの土砂の流入により、ほとんど埋没していて、開口部がわずかしか見えない。

第2区第11坑跡附近



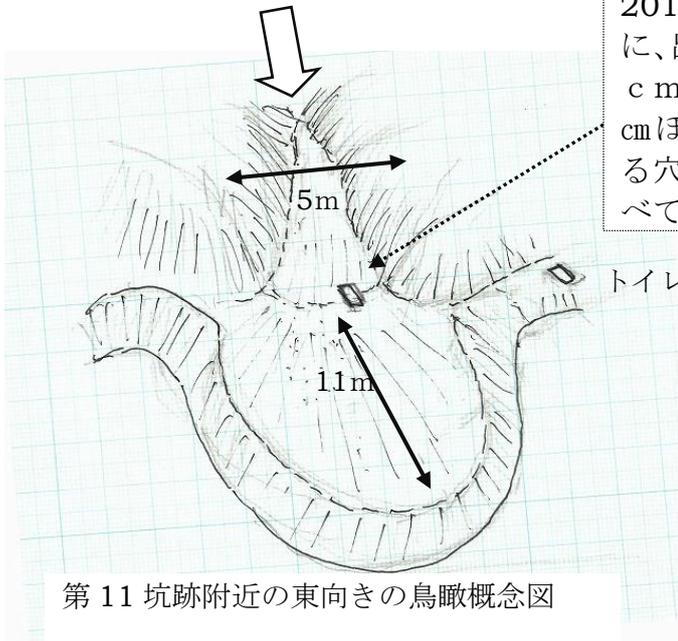
第11坑の陥没谷

第1区第8坑跡附近

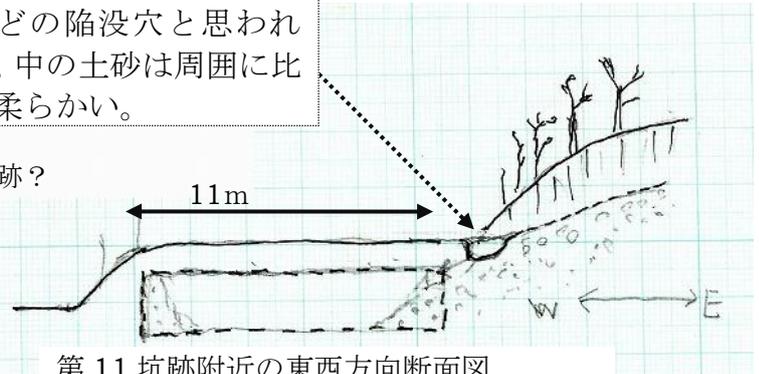


第8坑附近の谷にある幅2m35cmのコンクリート製堰堤

2011年9月の大雨の後に、出没した東西方向115cm、南北65cm、深さ60cmほどの陥没穴と思われる穴。中の土砂は周囲に比べて柔らかい。



第11坑跡附近の東向き鳥瞰概念図



第11坑跡附近の東西方向断面図

土砂が押し出されたようになっている下にトンネルが埋まっているのではないかな？

第2区第14坑跡附近



右は米軍資料にある入口の写真(場所不明)では入口まで直線的に地面を掘っており、第2区14坑附近は他の坑にはない直線的な壁がある。

瀬戸市の

戦争遺跡保存・伝承に対する御意見

2023年11月に愛知県から戦争遺跡の調査を各自治体に依頼したことを受け、保存する会では昨年10月24日には瀬戸市プロモーション課と地域振興部文化課長に戦争遺跡調査等の質問状を提出しました。瀬戸市からの回答は前号で紹介しましたが、その後、教育関係の諸団体に瀬戸市の回答文に対するご意見

見を文書でお聞きしました(2月1日付)ので、皆様にお伝えします。なおご意見をお伺いしたのは、瀬戸市教育委員会教育長加藤正彦様、瀬戸市小中学校社会科研究会会長加藤篤様、瀬戸市教員組合組合長青木竜也様、瀬戸市教職員労働組合執行委員長小林友子様です。(寺脇)

「愛知県史別編 文化財1 建造物・史跡」(2006年刊行)に記載された瀬戸市内の戦争遺跡

地図の番号	遺跡	所在地	内容
96	愛知航空機(株)瀬戸工場	瀬戸市上水野町	コンクリート造隧道入り口5こ以上、コンクリート造水槽
97	法雲寺の梵鐘代替品	深川町	昭和17年10月造陶製高さ115cm直径79cm、市指定文化財
98	東本地町の防空壕	東本地町	幅1m高さ1.2m長さ6.7m
99	新田町の防空壕	新田町97	庭先丘下に幅0.7m横穴2本
100	幡中町の防空壕	幡中町	幅0.6~0.9m高さ1.5m横穴5本
101	掛下町の防空壕	掛下町	幅1m高さ1.8m長さ10m

2006年発行の愛知県史に掲載された上記6カ所の戦争遺跡に関して、以下の4点の情報公開をお願いしました。

- 1, 6ヶ所の戦争遺跡に関する調査結果、その他瀬戸市において独自に把握している戦争遺跡に係る情報。
- 2, 愛知県に報告した調査結果の内容。
- 3, 市町村説明会の実施内容、または今後の実施予定。
- 4, 瀬戸市内の戦争遺跡の保存・継承に向けての瀬戸市の方針。

川本雅之瀬戸市長名での回答(11月17日)

- ・番号96(愛知航空機(株)瀬戸工場)
国や愛知県と協議を行い検討していくものと考えております。
- ・番号97(法雲寺の梵鐘代替品)
平成9年瀬戸市指定有形文化財(歴史資料)となって以降市文化財保護条例による保存対象でありますので、所有者様とともに瀬戸市はその保存・継承について今後とも尽力してまいります。
- ・番号98~101(防空壕)
陥没等の危険性があり、土地所有者様が希望する場合は維持管理課が閉塞等の対策をいたしますが、存置する場合は土地所有者の管理と考えております。

瀬戸市内の戦争遺跡の保存・継承に向けての瀬戸市の回答について ご意見(抜粋)

瀬戸市教育委員会教育長 加藤正彦様 2月7日付

瀬戸市内の戦争遺跡保存・継承に向けての瀬戸市の回答について、考えは一致しております。

なお、遺跡につきましては、小学校の「副読本 新しいせと」や中学校の「副読本 瀬戸」に掲載されております。

瀬戸市小中学校社会科研究会会長 加藤篤様 2月7日付

さて、お手紙にもありました、「瀬戸市内の戦争遺跡の保存・継承に向けての瀬戸市の回答についてのご意見」を、とのことですが、瀬戸市小中学校社会科研究会は、社会科に興味関心のある教員が集まり、授業方法の検討や地域資料の発掘及び授業への活用方法の模索などを主たる活動としている自主的な会でございます。そのため、貴会と瀬戸市とのやりとりについて口を差し挟む立場にはございません。よって本件の意見につきましては差し控えさせていただきます。

瀬戸市教職員労働組合執行委員長 小林友子様 2月12日付

瀬戸市地下軍需工場跡を保存する会が瀬戸市に対して要請した内容についての市当局の回答があまりにも消極的であり残念でなりません。今年、戦後80年の節目の年、「昭和100年」ともいわれ、平和に関する様々な企画が展開されるでしょう。「戦争遺跡を保存する会」をはじめとする諸団体の協力のもと、戦争遺跡の保存や戦争の記録の掘り起し、継承の取組を瀬戸市の施策に組入れることを強く要望します。

※ なお瀬戸市教員組合 組合長 青木竜也様からは、ご回答を2月26日の時点でいただいております。

失われた戦争遺跡＝東本地の防空壕

瀬戸市文化課が昨年2月に愛知県に提出した文書で現地調査もせずに不明としていた98番の東本地の防空壕は2021年の時点ですでに消失していました。(P6の番号98,99は消失を確認。100は存在確認。101は不明)



図1

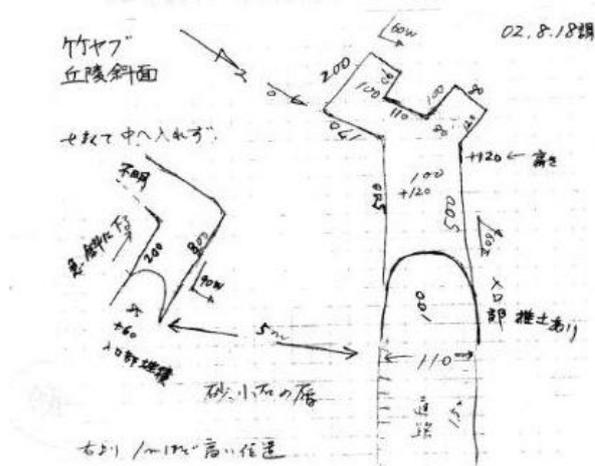


図2



図3



図4

2007年発行の愛知県史別編文化財1には瀬戸の戦争遺跡が6箇所掲載されています。その1つは地下工場跡地で、他に法雲寺陶製梵鐘。そして幡山地区にある4つの防空壕です。私たちは「瀬戸市の戦跡マップ」を作成するにあたり、市内の戦跡を再調査し始めました。今回はその4つの防空壕の中の一番西に位置していた東本地の防空壕について報告します。

上図右側の図(2, 4)は2002年にこの防空壕を調査され県史にも記載された戦争遺跡研究会の清水啓介さんが作製されたものです。当時の町内会がつくったもので写真も残っています(図1)。現在は幡山西小学校の西側に土砂を採掘する業者が入り、当時のようすを伺い知ることはできなくなりました。(図3)

(2021年9月 会報165号から抜粋 寺脇)

「被爆体験伝承者 船津晶子さん」④



昨年、6月29日(土)文化センターで、保存する会主催で広島から被爆体験伝承者の船津さんのお話をお伺いしました。その内容を掲載しています。今回は4回目。寺脇)



瀬戸市の方が描いてみえるが、戦後何十年もしてから描いたものですが、広島で見られた風景を瀬戸に帰って思い出して描かれたものだと思うのですが、みつお君がみた風景というのは(へさか)から見ると山がある。黒い山陰の向うの広島空が真っ赤に燃えていたのを(へさか)の駅から見たんですね。それは教室がつぶされて「助けてくれ!」、君が代を歌っていた一

中の友達は、そこから助ける事ができなかった。生きたまんま燃やされていったという事です。それを思うと、なかなか(へさか)の駅から、焼けている空を見ながら立ち去ることができませんでした。

8月6日の話はここまでで置いておいて、ここからは、原子爆弾についてお話をします。みなさんに聞いてみたいのですが、原子爆弾とふつうの爆弾との違いというのはおわかりでしょうか。

会場の声「原子爆弾は、普通の爆弾とちがつてすごい威力がある。」
威力というのはいすごいですね。一発で広島

の町が全部やられるのだから。
「普通の爆弾よりも放射線が強い」
放射線が出ない普通の爆弾と、原爆とか水爆とか放射性物質が入っていて放射線を出す。そこが大きな違いなんです。では放射線とはどんなものでしょうか。放射線って目に見えますか。

「見えません」

では臭うでしょうか。目にも見えない臭わないということ、人には気が付かない。ただちに影響ありませんとか言われて。体の中の臓器を全部痛めてしまう。その臓器によって、影響の出方は違うということになります。血液を造るところを壊しますし、すべてを痛める。一番最初に現れやすいのは、血液だったり、腸の組織だと言われています。

人間の身体と言うのは一つ、一つの細胞です。その細胞の中を見ていくと染色体というものがあります。細胞分裂をすることで成長したりするわけなんです。細胞分裂するとき染色体が見えます。それに放射線が当たってしまうと切られる。元に戻ろうとするのですが、元にもどれば良いが戻ろうとして間違えることがあるんです。

そうするとこのようになります。これは児玉光雄さんが放射性影響研究所の先生と協力して自分の体の血液の幹細胞を検査して得た写真です。大変貴重なものなんです。こちらは児玉光雄さんの体の中の正常な染色体で色を付けるのは検査のため、全部、色を変えています。染色体の並べ方も決まっています。長い順に並べるという約束があります。最後は男性、女性を決めるX、Y染色体。こちらを見ていただくと違いが判ると思いますが、白い三角のあつて色がミックスしていて、こ

こんなかはないでしょ。これもミックスしている。すごいたくさん切れたり、混じったりしてますよね。こんな風なひどい入れ替わりの染色体を持っているのは、1km以内の至近距離被爆者と言われている、すべての方がこのような検査ができるわけではないのですが、検査をしてみても、こういう染色体が現れたら、放射線被曝のせいでしょうということが想像できるわけです。もっと難しい話をすれば、4グレイというのが半致死量というのですが、彼はこの染色体の壊されようが4.6グレイの被曝をしているという様に言われています。正確には876mというところで被曝しています。SBCCというところがあつて今は放射性影響研究所になっていますが、そこは被爆者にもすごい詳しい一階の平屋建てに居た、平屋建てのどの場所に居た。どこに人が居た、人がいるだけでも遮蔽になる。水分とかあるから。ものすごい細かい検査をして被曝線量を決めているそうなんです。

これが児玉光雄さんの自らの体を提供して、自分の体に何が起こったのか知りたいたいのことの結果です。75歳の誕生日、被爆して63年後の検査で、なぜこれかというのと、これ63年経っても、このまんまということとは、人体を作る設計図と思ってください。細胞分裂をしても、まだ「間違った」配列のものを作ってしまうということは、

児玉光雄さんの体に、どういことが起こったか。ただちに影響はなかったかも知れません。だけれども急性放射線障害はあったのですが、60を過ぎたころに直腸がん、胃がん、甲状腺がん、皮膚がん、16回の皮膚がん。これは一つ一つが皮膚がんで転移したものではありません。最後には腎臓のがん、血液のがん、前がん状態と言われるMDSという病気になってしまいました。88歳まで生きらえたのですが、60歳から一つ一つ克服しても、また次のがんになるという被爆者特有の人生を送られたんです。



生前の児玉光雄さんと75歳のときに検査した児玉さんの染色体検査の図（右側）、左側の正常な染色体に対して、右側の染色体は数カ所にわたり違いがみられる（白点の部分）。

また308名おられた中の150名は屋外だったから数日で亡くなるような教室ではない何もささざるものがないところの被爆者だったから、数日でなくなっています。教室の中で150名は被爆したけれども80名は、なんとか脱出した。ただで家まで帰り着いたかどうかはわからない。80名の中のたった19名しか2年生になれていないんです。逃げ延びても急性の放射線障害でなくなっていく。・・・

（次号へつづく）

元米軍P51パイロットの手記

各務ヶ原の福手様より貴重な情報をいただきましたので掲載させていただきます。ありがとうございました。寺脇



硫黄島にあったアメリカ陸軍航空軍のHPを見ていたら興味深い記事がありましたのでお知らせいたします。訳文は私でしたが多少の不都合はお許しください。

添付の写真(右)は当時 第7戦闘機集団のパイロットと日本軍パイロットがハワイで最初に最後の懇親会の様子です。2006年のことでした。ヒストリアンから私に送って来た物です。彼らは昔の死闘を忘れて懇親会は友好的に進められたようです。会報誌に利用していただければ幸いです。福手一義 2024・12



SUNSETTER'S GAZETTE

Newsletter of the
Seventh Fighter Command Association
USAAF-World War II



第7戦闘機司令部協会ニュースレター第二次世界大戦

NEWSLETTER 大戦

Spring 2014

VOLUME XXVIII NUMBER 1

7th Fighter Command History in the Words of the Men Who Lived It.

第7戦闘機司令部の歴史を、それを生きた男たちの言葉で語る。

It has been some time since I published a newsletter, and due to the popular request to do so, I am following through on those requests. It also has been awhile since I have gotten any submissions for the newsletter, so I have struggled as to what to write about. This week I happened upon four boxes of letters that Jack Lambert generously sent me several years ago. Jack had used this material as the basis for his excellent book "The Pineapple Air Force". He had taken excerpts from these

Morgan R. Redwine - 46th FS / 21st FG - July 9, 1945 Nagoya, Japan



46th FS P-51D #219 S/N 44-73639 - Photo courtesy Ed Gronenthal

名古屋の北、15マイルにある飛行場の機銃掃射(各務原飛行場のこと)

私の人生で最も興奮した日?
1945年7月9日

"The most exciting day of my life? It was on July 9, 1945 and I believe that it will be the most exciting day if I live to be a hundred. Where was it? It was in Nagoya, Honshu Island, Japan. Or rather it was two miles from Nagoya, straight up

Ninety six Americans had left Iwo Jima in their P-51s that morning on a mission to strafe airfields 15 miles north of Nagoya. Everything was routine for the first three hours; following that B-29s that served as navigators, calling out the rescue boats that periodically dotted the vast Pacific, watching the occasional islands of the Japanese Empire slip behind our wings, taking a drink of water from our canteens, sliding into close formation and out again, and listening to the radio chatter about the abortions.

私の人生で最も興奮した日？それは1945年7月9日で、もし私が100歳まで生きられたら、最も興奮した日になるだろうと思います。それは日本の本州、名古屋でした。

いや、名古屋からまっすぐ2マイルのところでした。

その朝、96人のアメリカ人がP51戦闘機に乗って硫黄島を出撃し、名古屋の北15マイルにある飛行場を機銃掃射する任務に就いた。(各務原飛行場のこと)最初の3時間は、ナビゲーター役を務めるB-29爆撃機、広大な太平洋に定期的に点在する救助艇の呼び出し、時折日本帝国の島々が翼の後ろに隠れていくのを眺め、水筒から水を飲み、密集編隊を組んでまた離れ、中継に関する無線の会話を聞くなど、すべてが通常通りだった。

地平線に灰色の霧が現れた。それは太平洋に眠っている島のように広がる岩だらけの島、本州だった。パイロット達が任務の重要な局面に向けて準備を進めるにつれ、無意識のうちに編隊が緊密になった。酸素マスクを装着し、安全ベルトを調整し、機関銃に装弾し、照準器を点灯し、燃料を胴体タンクに切り替え、最後に計器盤に目を向けた。編隊はすぐに海岸に向かい、B-29の左側に進んだ。グループは検問所と

して機能していた岬から左に進み、名古屋湾に通じる狭い入り江を上がっていった。高射砲が静かに飛行機の周りの空気を乱し始めた。日本軍は戦闘機の高度を測ることができたが、たいていは横に逸れていた。無線は今や沈黙していたが、突然パチパチと音がした。

「12時の方向に敵機あり」と誰かが叫んだ。私は見上げたが、最初は何も見えなかった。その後、高度7500mのところに敵機がいた。そこには約40機の飛行機が、スイカに群がる大量のハエのようにうろついていた。機動性と速度を上げるため両翼タンクを投棄した。私の中隊は右に旋回し、高度を上げるために上昇を始めた。中隊長のブラッドリー・スミス大尉が先導した。私は部隊長のトム・ボデイに目をやり、それから空に戻った。鐘馗(陸軍二式戦闘機)がヒモ状に我々に向かって降下し始めた。我々が遅ればせながら正面から対峙しようとしてみると、鐘馗は近づいてきた。まるで、時間をかけて何時間もかけて降下しているようだった。煙と炎がエンジンカウルの前縁から流れ出ていた。私はそれが何を意味するのか不思議に思ったが、彼らが我々に発砲していることに気づいた。

これまでは発砲する機会がなかったが、いま鐘馗1機が我々に向かって銃口を向けてきた。

私は目を細めて照準器を覗きこみ、彼が射程内に入るまで待ち、引き金を引いた。

6丁の50口径機銃がブローンという音とともに発射され、私の飛行機は震えた。曳光弾は通り過ぎる日本機に射線を向けた。私は彼に命中したと思ったが、振り返らなかつた。しばらくの間、戦闘は紆余曲折を経た。今、もう1機の日本機が私の左翼にいた。私はコクピットでかがんでいるヘルメットを被ったパイロットを見た。彼の緑色のラッカー塗装された胴体に太陽が反射し、私は赤いミートボールを見た(曳光弾か)。「左に切れ、ボデイ」と私は呼びかけ、射撃のために敵に向きを変えた。私はボデイの方を見た。彼は旋回しており、彼が私を追うように引き込まれ、翼の先端から2本の細い蒸気の跡が流れ出ていた。日本人は我々に気付き、操縦桿を後ろに引いた。まるでエレベーターのように、彼は空中に飛び上がった。私も操縦桿引いて追従したが、より軽い日本軍機より上昇しようとするのは愚かなことだとすぐに気付いた。私は力を緩めた。

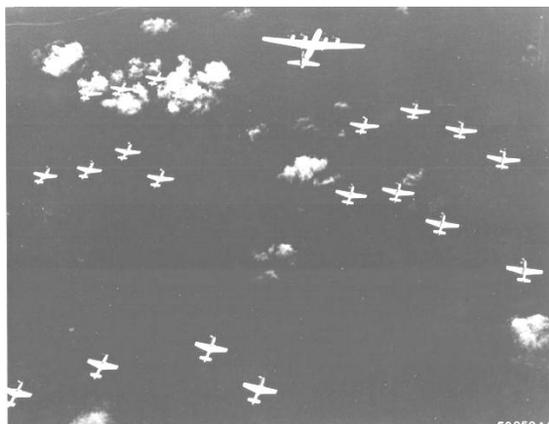
気を紛らわすために下をちらっと見ながら、更に下を見た。パラシュートが下の

湾に向かつて静かに降下していた。飛行機が墜落した場所を示す黒い染みが水面に3つ燃えていた。私は再び上を見上げて、日本パイロットの様子を確認したが、彼は姿を消していた。

不思議のことに、空気は静かになった。時折、無線通信が聞こえるだけだった。

我々4人、全員アメリカ人が湾の上空を制圧した。日本機は来た時と同じくらい早く去っていった。火はまだ下で燃えていたが、対空砲火はなかった。我々4人は編隊を組み、集合地点へと戻った。予定より早く予備タンクを投棄せざるを得なかったため、ガソリンが少なくなり、目標地点まで降りても無駄だった。(目標の各務原飛行場への機銃掃射は出来なかったようだ)口の中が乾いて疲れを感じていたが、同時に緊張もしていた。時計を見た。15分が経過していたが、2分ほど経ったように感じた。

基地に着陸した後、日本軍は我々の1機に対して20機の戦闘機を失ったことを知りました。目撃者によるとボデイと私は日本軍機1機ずつ撃墜したそうです。尋問を受けたとき、私はまだ緊張していたので、航空医官がやって来て飲み物をくれました。その後、私はさらに数杯飲んで、かなり酔ってしまいました。(手記 以上)



爆撃機 B29 に引率されて日本に向かう P51 戦闘機



硫黄島基地
奥は先導する B29

*情報は米国コロンビア州在住ヒストリアンから送られたものです。

こちらは、私が思う解説文です。硫黄島基地から本州に攻撃に来る戦闘機は飛行時間およそ3時間かかります。落下式予備燃料タンクで飛行して来て、本州に上陸する前に洋上で投下します、これはアルミタンクを日本軍に再利用されなためです。

米軍機は当時すでにロラン航法装置を装備していました。これは人工衛星を使うGPS航法が使われるまで長く旅客機の航法で使われていました。

戦闘機からは、敵、味方を識別するIFFと呼ばれる電波を発進しており、雲天や夜間でも敵、味方が容易に判別できるように、最善の装置が装備されていました。また本文にあるようにB29爆撃機が戦闘機編隊を引率して飛来しました。B29爆撃機は太平洋上で待機して、攻撃を終わってから引率して硫黄島に帰投しました。

さらに、英文4行目にあるように、洋上ではレスキュー艦艇が待機しており、不測の事態に備えていました。米軍はパイロットや航空搭乗員を大事にしていたことが分かります。

搭乗員の人命と養成には多くの時間とお金が必要だったからでしょう。

2025年1月

各務ヶ原市 郷土史家 福手一義

写真で観る晴嵐 28号機修復の全貌 第18話

愛知航空機研究者・渡辺哲国

9. 「風房」

1 視界について

艦上戦闘機、艦上爆撃機、艦上攻撃機はその用兵上の目的から、要求される視界が異なる。水上機でありながら、水平爆撃、急降下爆撃、魚雷攻撃の可能な晴嵐は一般的な視界に加え、

・離着水、水上航走、射撃、水平爆撃、急降下爆撃、雷撃、偏流測定時の視界が重要視された。

視界の検討は

- ・専用の視界線図換算図表
- ・木型審査や実機審査で確認され修正された。

2 晴嵐の風房装置概要

①本機の風房は操縦席前方より偵察席後方に及び、その最後端は回転式風房にして、旋回機銃銃架を構成す。

②操縦席及び偵察席は各々、高速時に於いての開閉円滑自由なる引戸式とし、任意の点にて開閉の制御可能なり。

③本風房全閉時は表面に段階なく、全く平滑になる構造を有し、前方遮風風房は視界を害せざる程度の局面ガラスにより整形され、その一部前面ガラスのみは平面ガラスを用い、視界を良好ならしめると共に極力空気抵抗の減少を図れり。

④第十七図はその一般図にして、操縦席及び偵察席共に後方に押す時は、軌條の一部屈曲により、後方球状滑動車は上方に押し上げられつつ開くものとす。

⑤本風房の構成材は、最前面の一部平面板のみ「ガラス」を用い、他は全て「プレックスガラス」を使用す。

風房枠組材は「ジュラルミン」型材により極力その寸度を小とし、視界を有利ならしむ。

⑥偵察席最後端に装備せる回転風房は「ジュラルミン」型材の枠組にして「プレックスガラス」を張り、その中に旋回機銃用旋回金具を包含す。

注1)

- ・前面の平面ガラスは強化ガラス。
 - ・プレックスガラスはプレキシガラス(Plexiglas)、匂いガラスとも呼ばれた、樹脂ガラス。
- 強化ガラスとプレキシガラスは愛知化学工業、「ジュラルミン」型材は住友軽金属で生産され海軍機用に供給されていた。

注2) 試作時の風房にはセルロイドが使用された。

3 愛知化学工業

満州事変以来、愛知時計電機では海軍砲煩兵器や海軍機の受注が激増し、会社規模も拡大し、製品の種類も幅広い分野となった。経営と生産の合理化を図るため、昭和11年10月に資本金百万円で愛知化学工業株式会社(現在のアイカ工業)を設立し、これまで、社内で内製していた化学製品の航空機用の接着剤、木製プロペラ、合板、点火栓、強化ガラス、安全ガラス、その他化学薬品等に移譲した。愛知化学は当初、愛知時計電機の敷地内で操業していたが、事業拡大に伴い、昭和13年、前年名古屋汎太平洋博覧会が行われた跡地の一部(名港通・現ブラザー工業)に移転した。

注)

- ・強化ガラス：無機ガラス、珪酸ガラス、シリカガラス
- ・安全ガラス：有機ガラス、樹脂ガラス、プレキシガラス、匂いガラス
- ・愛知時計電機、愛知化学工業、愛知航空機は戦前、「アイチ三社、愛知御三家」と呼ばれていた。

次号へつづく



①
②
③
試作中の晴嵐の風房部、6ピ
ース構成、最後部が回転式
の
機銃銃架覆い風房。

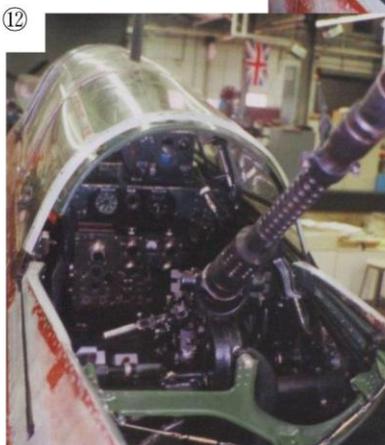
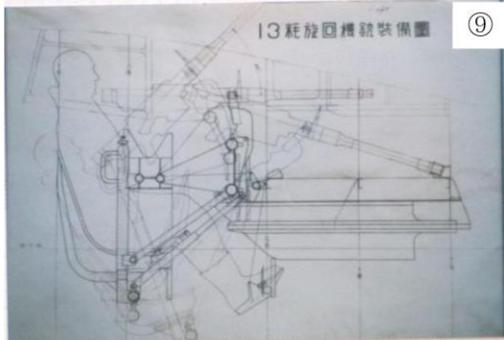


④⑤⑥

修復の完了した晴嵐 28号機の風房部、バフ研磨で磨かれた。



⑦
⑧
操縦員の射出時ショック対応用ヘッ
ドレスト。
*頭部を固定し、計器板下部に装着
されたロープと操縦桿と一緒に握
り、射出時に昇降舵を固定する。



⑨⑩⑪⑫

13mm 旋回機銃
装備状況。

みなさまからのメッセージ とインフォメーション

ありがとうございました！

会報 NO184号 届きました。ありがとうございました。

p3の「2025年 改めて反戦の誓いを」の記事を拝読しました。中村哲さんのアフガニスタンでの功績は立派で 我が国の誇りです。彼の功績はノーベル賞にも値します。新1万円札には中村哲さんの肖像がふさわしいです。

憲法九条は 理想となるべく社会を先取りしています。現在 世界中で戦争が続いて 現実があまりにも理想から離れているので、現実を九条の理想に近づける努力が必要とされます。遠い道のりですが、決してあきらめてはいけませんね。

今回も ご多用な中、妻の被爆体験伝承者の話を 文字起こしして いただいてありがとうございました。70歳をすぎると あちこち身体が不調になりますね。私は 歯や眼が 老化とともに不調です。
広島市 船津 宏

5月24日(土) 戦争体験を語り継ぐ会で各務ヶ原空襲資料室調査員の福手一義さん(関連記事P11)が「米軍資料にみる熱田空襲」と題してご講演をしていただけます。その際に、熱田空襲で多量に投下された250kg爆弾の模型(右写真)を海上の森で「米兵捕虜斬首事件」を調査されている鈴木守さんに展示していただきます。右の新聞記事も鈴木さんから送っていただきました。ありがとうございました。(寺脇)



250 kg爆弾模型只今製作中 (鈴木守さん)

「平和地蔵尊」
は市民の力で
残った！

2025年(令和7年)2月14日(金)

享只 日 衆斤 局軒

歩道沿いから約1.5mフェンス側に移動させ、台座も外して低くした空襲犠牲者を悼む平和地蔵尊。左奥は愛知時計電機本社一名古屋市熱田区千任1丁目

熱田空襲犠牲者悼む 「平和地蔵尊」を保存

歩道沿いから1.5m奥に移転

歩道近くにあり倒壊の恐れから存続が危ぶまれていた名古屋市長熱田区の熱田空襲犠牲者を悼む「平和地蔵尊」の保存が決まった。歩行者に危害を及ぼさないよう、歩道沿いから約1・5m奥のフェンス側に移すなどの安全対策工事が今月6日に終わった。工事終了にあわせた法要も19日に予定されている。

1945年6月9日、軍用機生産の拠点だった愛知時計電機の工場を狙った「熱田空襲」で、市内最多の2千人が死亡。地蔵尊は、58年に同市中央区の商店主らによって本社敷地内に建立された。

「将来の平和と安定を祈り被爆死者等の冥福を祈りて祈願する」。地蔵尊の背に、市民の願いが刻まれている。

戦後もまもなく80年。建立関係者は亡くなっていく。倒壊の危険もあるとして、同社は昨年、看板で「7月撤去方針」を告知。約200人が離れた工場正門前にある同社従業員犠牲者の地蔵尊に合祀する考えだった。

これに対し、地元「遺跡を守る有志の会」が立ち上がるなど、反発が広がる。同社も方針を変更。平和地蔵尊の台座を外し、全体の高さを約3・5mから約2・5mと低くするなど、安全対策を講じて存続させることにした。

平和地蔵尊前で毎年6月、供養を続けてきた同市中川区の住職石原英彦さん(60)は「会社の協力で残せることになり、よかった」と話す。別の神社や寺に引き取る話なども出ていたが、いずれも具体化しなかったという。

有志の会代表の林信敏さん(80)は、「なごや平和の日」が制定された昨年、撤去の話が出て驚いた。案内看板を設置したり、空襲記録の本を復刊したりするよう市にも働きかけたい」と話す。(伊藤智章)

編集後記



一昨年11月に愛知県が県下各市町村に戦争遺跡の所在等調査を依頼した件で瀬戸市の対応を当会が打診した結果を2回にわたり、掲載するとともに、いろんな方々にご意見を伺いました(P6, 7)。みなさまのお考えもどしどしおきかせいただけるとありがたいです。

2025, 2, 28 (T)